

12. ケラマ諸島全島一斉ビーチクリーン

実施主体名	チームケラマ主催
開催日時	3月5日11時～3月5日14時
実施内容	前夜祭： イベント（フラダンス、マグロの解体、エイサーなど） 当日： 4島一斉ビーチクリーン活動 終了後 記念撮影 島内観光やグラスボート体験など
実施状況	前夜祭： 渡嘉敷島 野外キャンプ場にて（晴れ） 座間味島 室内 当日： 快晴 参加者： 4島 合計 約350名参加 島民をはじめ、観光客、地元、外国人、企業参加など 親子で参加の方： 一緒に参加することで、会話もでき楽しい時間を過ごすことができた。 企業で参加： 会社のイベントとして申込みしたが、仕事からはなれてソストレス解消もでき、コミュニケーションの場として活用できた。 観光客： ケラマ諸島の海を清掃することも楽しみですが、前夜祭などで島民の方々と触れ合うことで、より島の魅力を感じる事が出来ました。
実施しての所感	ケラマ諸島の魅力を多くの方々に知ってもらう良い機会でもあり、ビーチクリーンに参加することでケラマブルーより身近に感じていただく事ができたのではないかと。前夜祭では島の方々と触れ合うことも楽しみの一つだと思います。
メディアへの掲載	実施後は得になし。 実施前は沖縄タイムス、琉球新報に表敬訪問の様子掲載、雑誌うちに掲載。

【当日の様子】



14. 大浦湾グラスボートで青サンゴ見学&学習会

実施主体名	じゅごんの里
開催日時	3月5日10時～3月5日15時
実施内容	大浦湾をグラスボートで見学し、青サンゴやその他のサンゴを見学。 自然保護協会の安部真理子さんを招いての大浦湾についての勉強会。
実施状況	※当日の天候（野外イベントのみ）、参加者数、参加者層（親子、シニア、若者、観光客、地元民等）、参加者の様子・反応などを簡単に記述ください。 快晴。20名。親子、若者、研究者、学生、他県からの参加もあり。 非常に満足していました。
実施しての所感	大浦湾のアオサンゴは現在わかっている中で世界最大であり、状態も非常に良い。 しかしまだまだ認知度が低い。来年以降も同イベントに参加したい。

【当日の様子】



15. サンゴの日は博物館へサンサン GOGO

実施主体名	沖縄県立博物館・美術館
開催日時	3月5日9時 ~ 3月5日15時
実施内容	① サンゴでつくるストラップ ② サンゴでランプシェードをつくろう ③ サンゴ礁にすむ貝で遊ぶ ④ サイエンスカフェサンゴの話（講師：大野良和氏）
実施状況	参加者数：のべ180人 参加者層（親子（多数）、シニア（20）、観光客（5）、花粉症移民（2）） 参加者の様子・反応： 皆楽しそうに参加してくれました。①～③をすべて行う熱心な親子もいました。 ④のサイエンスカフェでは、参加者自らサンゴ礁の保全に行動を起こそうという前向きな意見が聞かれました。
実施しての所感	このようなイベントは、サンゴに対する意識付けになる。お土産もあるので家に帰ってからも思い出さるだろう。
メディアへの掲載	沖縄タイムス：3月6日 琉球放送：「南の島のミスワリン」放送未定

【当日の様子】



1. ストラップ



2. ランプシェード



3. 貝で遊ぶ



4. サイエンスカフェ

16. しらほサンゴ村クイズラリー

実施主体名	WWF サンゴ礁保護研究センター
開催日時	2月 25日 9時 ~ 3月 12日 17時
実施内容	館内3か所に選択式のクイズを設置し、全問正解した来館者にWWFのオリジナルグッズをプレゼントしました。
実施状況	参加者は89名でした。子どもから年配の方まで、あらゆる年齢層の方が参加してくださいました。ほとんどが観光客でした。 来館者の反応はとても良く、短時間で済むクイズ形式なので、気軽に参加してもらうことができました。プレゼントにも皆さんとても喜んでくれ、良い来館記念になったようでした。
実施しての所感	クイズを解くために、館内の展示物でじっくり勉強してからクイズラリーに挑む方もいらっしゃる、当施設の展示物に対する満足度、サンゴ礁保全に対する理解度も上がったのではないかと感じます。
メディアへの掲載	沖縄観光コンベンションビューロー おきなわ物語 2017年3月3日 http://www.okinawastory.jp/mahaeblog/?p=9498

17. サンゴ苗床作り体験

実施主体名	NPO 法人コーラル沖縄
開催日時	3月 5日 9時 ~ 3月 5日 12時
実施内容	座学でサンゴの役割や温暖化の影響を受けた現状を理解してもらい、サンゴクイズで理解度を確認し質問コーナーで疑問を解決後、サンゴ飼育水槽へ移動しサンゴの苗床作り体験を行った。
実施状況	参加者は県内在住の親子、ご夫婦で参加者に加え、仙台からこのイベントへ参加するためだけに沖縄を訪れた方もいた。 参加人数 15名 質問コーナーでは参加者の殆ど全員から質問があり、サンゴ礁保全に対する興味や意識の高さが伝わってきた。
実施しての所感	せっかくなのでもう少し多くの参加者に集まってもらいたかった。 天候にもよるが、来年はビーチコーミングとサンゴの苗つくりを組み合わせたいと思っている。



18. サンゴ礁のフィールド観察会

実施主体名	一般社団法人キュリオス沖縄、沖縄科学技術大学院大学
開催日時	3月12日 11時30分 ~ 14時30分
実施内容	恩納村ふれあい体験学習センターの研修室にて、事前学習として沖縄科学技術大学院大学（OIST）で行われている海に関わる研究を紹介していただいた。野外観察はセンターに隣接する干潟・岩礁帯を親子連れと散策し、環境の違いと生息する生き物の違いを観察した。事前学習と野外観察を通して、沖縄の海が研究者にとって魅力的な場所であることを伝えた。
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：22名 ・参加者層：親子、学校教員、観光事業者 ・参加者の様子： <p>事前研修では興味を持ってOISTの活動紹介を聞いていた。野外観察では子どもたちが楽しく積極的に生き物を探索し、実際に触れながら観察をしていた。生き物を触ることに苦手意識のある子どももいたが、親やガイドの補佐もあり、手に乗せるなどの挑戦をしていた。中学校教員や観光事業者が情報収集のために参加していた。</p>
実施しての所感	野外で一般向けに研究の話をする機会は少ないが、実物を見ながらの解説は受け入れやすく、反応も良いように思われた。直前にキャンセルが相次ぎ、満員での開催とならなかったのは残念だった。

以下、イベントの様子。



19. ワークショップ「カーミージーの夢づくり」

実施主体名	うらそえ里浜ネットワーク
開催日時	2月26日 10時 ~ 2月26日 17時
実施内容	<p>県立博物館・美術館の県民ギャラリーにて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーミージーの海を伝える展示：地元年配者の聞き取り調査からの言葉、海の生物写真、港川自治会の里浜づくり活動、港川小児童による壁新聞と環境保全ポスター、沖縄国際大学山川研究室の研究ポスター ・貝遊びコーナー（貝のコマ回し、貝殻合わせ） ・「カーミージーの夢づくり」ワークショップ
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数：展示観覧20名、ワークショップ参加50名、計70名 ・参加者層：シニア（港川自治会老人会）、浦添市内外の親子など ・参加者の様子：展示時間には、浦添市内の親子、市内外の大学生や大人などが訪れて、スタッフの解説を聞きながら展示を見たり、意見を書いていました。親子で貝遊びに興ずる様子も見られました。 <p>午後のワークショップには港川の老人会が団体参加し、市内外からの親子などと合わせて、カーミージーの海に対する意見を付箋紙に書いていきました。出された意見は、「1：カーミージーの海（沖縄の海）での思い出」55枚、「2：カーミージーの海（沖縄の海）の好きなおところ」58枚、「3：これからカーミージーの海でやってみたいこと」59枚、「4：カーミージーの海をみんなで大事に使うために、作っておいたらよいと思うルール」57枚でした。意見は壁に貼り出しながら紹介し、全体での共有を図りました。子どもたちが大人と一緒に意見を出し合ったことと、普段あまり発言しない老人会のみなさんが、個人の意見をスムーズに出せる機会となっていたのが印象的でした。これらの意見は、今後の里浜活動において、海を保全しながら利用するルール作りの基礎資料とする予定です。</p>
実施しての所感	海に対する市民の意見を吸い上げる機会として、またお互いの意見を知り合う機会として、意義のある試みだったと思います。
メディアへの掲載	FM21：2月24日「Qのひげ」番組内で宣伝。 当日、琉球新報の取材あり。

展示



展示



貝遊び



ワークショップ



ワークショップ



ワークショップ



20. 2017 “島人ぬ宝 『サンゴと共に』

実施主体名	ちゅら海を守り、活かす海人の会
イベント名	2017 “島人ぬ宝 『サンゴと共に』
開催日時	2月26日15時～2月26日18時
実施内容	※実際に実施した内容を簡単にご記入ください。 2016年9月～2017年1月迄調査した沖縄本島17か所のリーフチェックの報告とサンゴについての有識者による講演会
実施状況	参加者総数 58名 参加者層 親子2名 ダイビング、マリン関係者 18名 一般 約23人 スタッフ 10人 他 反応 音響装置が悪く聞こえにくかった。 サンゴの白化現象の現状が良く理解できた
実施しての所感	2月15日から3月15日迄、確定申告の関係で各地区ごとに申告会場で会場が確保できず今年は、場所の選定で苦勞したし集客にも大変苦勞した。
メディアへの掲載	琉球新報 2月28日 4月10日発売の月刊マリンダイビング誌



21. 美ら島自然学校 学習会「ウミガメのなぞ」

実施主体名	(一財) 沖縄美ら島財団 総合研究センター
開催日時	3月4日 14時00分 ~ 3月4日 16時00分
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウミガメの種類、生態についての講話 ・ ウミガメとリクガメの形態の違いについて解説 ・ ウミガメの生体や骨格標本を用いて、形態の観察と解説
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催場所：美ら島自然学校（所在地：名護市嘉陽41番地） ・ 屋内にて実施 ・ 参加者数：9名（子ども：2名、大人：7名）※すべて県内在住者 ・ クイズ形式で解説を行う等、参加者が理解しやすいように工夫した。
実施しての所感	アンケートより「標本や子ガメの生体を使用して説明されており良かった。」「(実際に触って、観察できて) インターネットや本での調べ学習では得られない内容で良かったです。」等の意見をいただいたことから、本学習会を通して、自然および生き物への理解や関心の向上に繋がったと考えられる。
協議会への要望	特になし
メディアへの掲載	なし

以下、イベントの様子など写真を貼り付けて下さい。



22. 美ら島・美ら海こども工作室「サンゴの型取り染めでオリジナルTシャツなどを作ろう」

実施主体名	(一財) 沖縄美ら島財団 総合研究センター
イベント名	美ら島・美ら海こども工作室「サンゴの型取り染めでオリジナルTシャツなどを作ろう」
開催日時	3月5日 13時00分 ～ 3月5日 15時00分
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ サンゴの種類や形態についての講話 ・ サンゴ骨格を利用した型取り染めで作製できる作品の紹介 ・ 参加者自身が持参したTシャツなどを利用して染め物の作製
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催場所：美ら島自然学校（所在地：名護市嘉陽41番地） ・ 屋内にて実施 ・ 参加者数：11名（子ども：4名、大人：7名）※すべて県内在住者
実施しての所感	アンケートより、「サンゴの骨には色々な形や模様があることを知った。」「自然素材を利用した工作がよかった。」等の意見をいただいたことから、本工作を通して、自然および生き物への理解や関心の向上に繋がったと考えられる。

以下、イベントの様。



24. サンゴ礁自然誌講座「サンゴ礁の磯観察」

実施主体名	(一財) 沖縄美ら島財団 総合研究センター
開催日時	3月12日12時00分 ~ 3月12日15時00分
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋内にて、サンゴ礁の多種共存を支えている「棲み込み連鎖」を解説し、磯観察を行う際の注意点やポイントについても紹介した。 ・ 野外にて、サンゴ礁イノーで見られる様々な環境や地形、生物（サンゴやウニ、貝類等）を観察した。 ・ ハマサンゴのマイクロアトールに着目し、「棲み込み連鎖」の様子を観察した。 ・ 室内に戻り、観察のふりかえりを行なった、
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開催場所：(一財) 沖縄美ら島財団総合研究センター視聴覚室（所在地：国頭郡本部町石川888番地）および本部町備瀬の海岸 ・ 天候：晴れ ・ 参加者数：7名（子ども：0名、大人：7名）※すべて県内在住者
実施しての所感	アンケートより、「『棲み込み連鎖』の概念について知ることができてよかった。」「参加対象が大人だけであり、『棲み込み連鎖』の概念を聞きながら観察ができてよかった。」という意見をいただいたことから、今後の野外観察会の実施の参考にしたい。
メディアへの掲載	RBC琉球放送「南の島のミスワリン」3月26日放送

以下、イベントの様子。



25. 合言葉は『サンゴ可愛い!』

実施主体名	さんご畑
イベント名	合言葉は『サンゴ可愛い!』
開催日時	2月 25日 9時 ~ 3月 12日 18時
実施内容	受付で合言葉『サンゴかわいい』とっていただいたお客様入場無料
実施状況	<p>参加者数：大人 100名・学生(高校生以上)9名・子供 68名合計 177名</p> <p>参加者層：(親子・シニア・若者・観光客・地元の方)</p> <p>参加者の様子：親子で生き物に触れたり、サンゴについて興味を持ち質問をしてくるお子さんがいらして来年もまた来ますと仰ってくださる方もいました。</p>
実施しての所感	<p>前年度に引き続きサンゴ礁ウィークを活用して</p> <p>県外企業さまと共に親子で参加できるイベントを実施する事ができたこと、毎年サンゴ礁ウィーク期間中にご来園くださるリピーターのお客様が多く見られました。</p>

26. プレサンゴ礁ウィーク 喜界島サンゴ礁フェス

実施主体名	主催：環境省、鹿児島県、喜界町、喜界島サンゴ礁科学研究所、 奄美群島サンゴ礁保全協議会 協力：WWF ジャパン																																		
開催日時	2月 11日 15時 ～ 2月 11日 18時																																		
実施内容	<table border="1" data-bbox="347 488 1441 1227"> <thead> <tr> <th colspan="3" data-bbox="347 488 1441 533">ステージ進行</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="347 533 571 611">15:00-15:05</td> <td data-bbox="571 533 1093 611">ステージ開会 開会の挨拶 (着ぐるみ 15:10-15:40)</td> <td data-bbox="1093 533 1441 611">喜界町 副町長</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 611 571 656">15:05-15:10</td> <td data-bbox="571 611 1093 656">サンゴ礁保全行動計画について</td> <td data-bbox="1093 611 1441 656">環境省</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 656 571 779">15:10-15:45</td> <td data-bbox="571 656 1093 779">サンゴ礁文化を継承する里海づくり～ 石垣島白保集落と取り組んだサンゴ礁 保全～</td> <td data-bbox="1093 656 1441 779">筑紫女学園大学准教授 上村真仁氏</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 779 571 857">15:45-16:20</td> <td data-bbox="571 779 1093 857">地域と歩むサンゴ研究者として～四国 の事例～</td> <td data-bbox="1093 779 1441 857">四国海と生きもの研究室 代表 岩瀬文人氏</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 857 571 981">16:20-17:00</td> <td data-bbox="571 857 1093 981">なぜサンゴ礁を守るのか (聞き手：喜界島サンゴ礁科学研究所長 山崎敦子氏)</td> <td data-bbox="1093 857 1441 981">琉球大学名誉教授 土屋誠氏</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 981 571 1025">16:50-17:05</td> <td data-bbox="571 981 1093 1025">研究所看板除幕式</td> <td data-bbox="1093 981 1441 1025">渡邊氏・山崎氏</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1025 571 1070">17:05-17:10</td> <td data-bbox="571 1025 1093 1070">フラダンス用会場設定</td> <td data-bbox="1093 1025 1441 1070"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1070 571 1115">17:10-17:40</td> <td data-bbox="571 1070 1093 1115">芸能ステージ アヌエヌエフラ教室</td> <td data-bbox="1093 1070 1441 1115"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1115 571 1149">17:30</td> <td data-bbox="571 1115 1093 1149">着ぐるみ再登場(17:50 まで)</td> <td data-bbox="1093 1115 1441 1149"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1149 571 1227">17:40-17:45</td> <td data-bbox="571 1149 1093 1227">閉会の挨拶</td> <td data-bbox="1093 1149 1441 1227">喜界島サンゴ礁科学研 究所代表 渡邊剛氏</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="347 1279 432 1312">会場内</p> <p data-bbox="359 1328 531 1361">【販売ブース】</p> <ul data-bbox="379 1375 1430 1408" style="list-style-type: none"> ・喜界島サンゴ礁科学研究所 ・オーガニックアイランド喜界 ・NPO法人夏花 <p data-bbox="359 1424 616 1458">【工作・体験ブース】</p> <ul data-bbox="379 1471 994 1505" style="list-style-type: none"> ・研究所看板作り ・サンゴ染め ・星砂さがし <p data-bbox="359 1520 788 1554">【来場者プレゼント 先着 100名】</p> <ul data-bbox="379 1568 1211 1695" style="list-style-type: none"> ・環境省：アヒル隊長シールと缶バッジ ・WWF：4枚組ハンドタオルセット ・NPO法人夏花：月桃パウダー入りサーターアンダギー3個入り <p data-bbox="359 1711 671 1744">【ポスター・パネル展示】</p> <ul data-bbox="379 1758 1452 1841" style="list-style-type: none"> ・環境省：森里川海パネル6枚 ・WWF：ポスター4枚 ・NPO夏花：ポスター4枚 		ステージ進行			15:00-15:05	ステージ開会 開会の挨拶 (着ぐるみ 15:10-15:40)	喜界町 副町長	15:05-15:10	サンゴ礁保全行動計画について	環境省	15:10-15:45	サンゴ礁文化を継承する里海づくり～ 石垣島白保集落と取り組んだサンゴ礁 保全～	筑紫女学園大学准教授 上村真仁氏	15:45-16:20	地域と歩むサンゴ研究者として～四国 の事例～	四国海と生きもの研究室 代表 岩瀬文人氏	16:20-17:00	なぜサンゴ礁を守るのか (聞き手：喜界島サンゴ礁科学研究所長 山崎敦子氏)	琉球大学名誉教授 土屋誠氏	16:50-17:05	研究所看板除幕式	渡邊氏・山崎氏	17:05-17:10	フラダンス用会場設定		17:10-17:40	芸能ステージ アヌエヌエフラ教室		17:30	着ぐるみ再登場(17:50 まで)		17:40-17:45	閉会の挨拶	喜界島サンゴ礁科学研 究所代表 渡邊剛氏
ステージ進行																																			
15:00-15:05	ステージ開会 開会の挨拶 (着ぐるみ 15:10-15:40)	喜界町 副町長																																	
15:05-15:10	サンゴ礁保全行動計画について	環境省																																	
15:10-15:45	サンゴ礁文化を継承する里海づくり～ 石垣島白保集落と取り組んだサンゴ礁 保全～	筑紫女学園大学准教授 上村真仁氏																																	
15:45-16:20	地域と歩むサンゴ研究者として～四国 の事例～	四国海と生きもの研究室 代表 岩瀬文人氏																																	
16:20-17:00	なぜサンゴ礁を守るのか (聞き手：喜界島サンゴ礁科学研究所長 山崎敦子氏)	琉球大学名誉教授 土屋誠氏																																	
16:50-17:05	研究所看板除幕式	渡邊氏・山崎氏																																	
17:05-17:10	フラダンス用会場設定																																		
17:10-17:40	芸能ステージ アヌエヌエフラ教室																																		
17:30	着ぐるみ再登場(17:50 まで)																																		
17:40-17:45	閉会の挨拶	喜界島サンゴ礁科学研 究所代表 渡邊剛氏																																	

実施状況	<p>参加者数：200</p> <p>参加者層：親子、シニア、若者、観光客、行政関係者</p> <p>参加者の様子：予想以上の来場者があり、サンゴ礁保全に関心を持つ方はステージでの講演、子供連れは会場内の工作に参加する等、全世代が楽しめるイベントとなった</p>
実施しての所感	<p>来場者プレゼントや、着ぐるみの出動など、来場者増の仕掛けをしたことにより、予想を上回る来場者を記録した。</p>
メディアへの掲載	<p>南海日日新聞、2月12日</p> <p>奄美新聞 2月12日</p>

以下、イベントの様子。



27. 毎日メディアカフェ：「沖縄から東京へ出前講座！みんなで学ぼうサンゴの海 — 多様なエビ・カニ類を育む沖縄のサンゴ礁」

実施主体名	アラムコ・アジア・ジャパン株式会社
開催日時	3月 1日 18時30分 ~ 20時00分
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 東京近郊在住の方々にもサンゴの海について学んでいただこうと、沖縄県立芸術大学の藤田喜久准教授をお招きし、沖縄のサンゴ礁に見られる様々な微環境と、そこに見られる多様なエビ・カニ類の暮らしぶりをPPTを見せながら講演(1時間)＋質疑応答(20分)。 会場：毎日新聞東京本社ビル MOTTAINAI STATION 内「毎日メディアカフェ」
実施状況	<p>【天候】 晴れ</p> <p>【参加者数】 24名 (定員30名;事前申込制)</p> <p>【参加者層】 主に都内に勤務する社会人</p> <p>【参加者の様子・反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者は熱心に聞き入っていた。 参加者、メディアカフェ事務局共に総合的な評価は高かった。 <p>【参加者のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大変面白く、勉強になった。 どんなにPCの画面をスクロールしても出てくるカニの種類の高さに驚いた。 印象的な画像が多。 沖縄に行きたくなった。 目に見えない物事に対するリスペクトを忘れないことと、謙虚であることの大切さを違った視点から学んだ。 サンゴ中心でなく、それを取り巻く生態系の話が多く、とても興味深かった。廃墟に見える場にも様々な生物が生息し、そこに注目できる着眼点があってこそその発見。その柔軟性や好奇心を見習いたい。
実施しての所感	<ul style="list-style-type: none"> 「サンゴ」と「サンゴ礁」の違いといった基本的なことから始まり、話が多岐にわたっていたので、初心者入門編としてとても親切な構成と内容だった。 「非常に面白い内容で勉強になった」という多数の声。内容は申し分なく、今後はいかに集客するかが課題。 数日後に同じく東京で開催された白化に関するシンポジウムとテーマや切り口が異なっていたので、差別化できていてよかった。
メディアへの掲載	<ul style="list-style-type: none"> 毎日新聞(東京版)3月2日朝刊(別添参照) 毎日メディアカフェHP イベントアーカイブ欄 http://mainichimediacafe.jp/eventarc/1318/ 毎日メディアカフェ フェイスブック https://m.facebook.com/mainichimediacafe/photos/a.1436003079975415.1073741828.1433260473583009/1841373282771724/?type=3&source=54

【当日の様子】



28. サンゴの日記念 沖縄まつり in サンシャインシティ

実施主体名	(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー
開催日時	平成 29 年 3 月 4 日～3 月 5 日 10 時～18 時
実施内容	<p>※実際に実施した内容を簡単にご記入ください。</p> <p>・サンゴの苗作り体験やタッチプールの設置、サンゴに関するワークショップを開催。イベント会場にてステージイベントや沖縄離島のブースを設け観光情報の提供を行った。</p>
実施状況	<p>※当日の天候（野外イベントのみ）、参加者数、参加者層（親子、シニア、若者、観光客、地元民等）、参加者の様子・反応などを簡単に記述ください。</p> <p>当日の天候：晴れ</p> <p>イベント来場者数：6,943 名</p> <p>客層：ファミリー層を中心とした様々な層</p> <p>参加者の様子：沖縄の海に関する興味が強いと感じた。サンゴに関するワークショップも多くの方に参加いただけた。</p>
実施しての所感	海に興味はあるがサンゴには関心がない方も多いように感じたため、より多くの方にサンゴに関する理解を深め、興味を持ってもらうきっかけ作りを続けていく必要がある。



29. グラスボートお得意乗船ウィーク

実施主体名	タイガービーチリゾートクラブ
イベント名	グラスボートお得意乗船ウィーク
開催日時	3月1日 ~ 3月17日
実施内容	<p>グラスボート乗船を特別価格にてご案内。 1日平均4便出航（潮位により出航時間変動有り） 通常大人@1,730 小人@860 → 大人@1,100 小人@600（幼児は無料） グラスボートに乗船し、ポイント到着までの間サンゴについての説明をクイズ形式や図を使用して行う。</p>
実施状況	<p>開催期間中10日間運航。7日間天候不良の為、欠航。 ご家族での参加も多かったが、大人のみでのグループ参加も多かった。 イベント内容、スタッフ対応共に好評価をいただいた。 同イベントが開催されたらまた来たいとの声も多かった。</p>
実施しての所感	<p>環境について興味を持っていただけた方が多かったように感じます。 小さなお子様もサンゴについての説明をクイズ形式にしたことにより、参加しながら楽しんでいただく事ができました。</p>
協議会への要望	<p>年に数回このようなイベントを開催していただきたいです。 各事業所がそれぞれで行うよりも、併せて開催することにより認知度もあがると思いますし、環境保護と集客両方に良い影響を及ぼしてくれるのでは。 さらにスタンプラリーやそれに替わるものを取り入れてゲストが各事業所を回りやすくし、知識を深められるようなツール作り、また事業所同士でも繋がれるような環境を作っていただけたら嬉しいです。</p>



○今後の展望

第4回目となるサンゴ礁ウィーク 2017 では、前回から参加団体数、イベント数がともに増加した。2018 年は国際サンゴ礁年となっており、世界的に保全活動・普及啓発活動が活発になると考えられるため、次回は参加団体・イベント数のさらなる増加が予想される。そのため、参加団体間の交流や広報支援、イベント同士の連携など、より効果的・効率的に実施するための取り組みが重要となる。また、課題となっているサンゴ礁ウィーク全体の認知度向上については、各種メディアや団体と協力して沖縄県内外への情報発信を継続的に行い、国際サンゴ礁年と連動して認知度向上を仕掛けていく。

2016年の沖縄近海で確認された広範囲に渡る白化現象が全国的にニュースとして取り上げられたことで、サンゴ礁分野の普及啓発を全国的に行う重要性が改めて認識された。当協議会の活動を含めてサンゴ礁ウィークの取り組みをより広く周知していくことで、当初より目標としている自発的なイベントの実施によって成り立つサンゴ礁保全推進週間としての確立を引き続き目指していく。

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2 行政棟 4 階

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会事務局
(沖縄県環境部自然保護課内)

電話番号 : 098-866-2243

メール : coralreef@okikanka.or.jp

